



山本 均 さん (石川県金沢市在住)

株式会社 北陸人材ネット 代表取締役社長
「北陸をもっと元気に!」を会社のブランドスローガンとして、北陸(石川県、富山県、福井県)限定の有料職業紹介(転職支援事業)を展開している。
社員の5名は全て女性で、フルリモート、フルフレックスを導入。さらに、ワーケーション手当、社員同士でのオフ会手当、副業の推奨など「ねばねば」ではなく「わくわく」する様々な仕組みを創出し、社内、そしてユーザーに提供している。

【主な受賞歴】
2016年 テレワーク先駆者百選 選出(北陸企業初)
2021年 第4回 WOMAN's VALUE AWARD 特別賞
2022年 第22回 テレワーク推進賞
2023年 石川県ワークバランス企業知事表彰 優良企業賞

Q 今の日本の「働き方」に対して自身や会社のアプローチは?

A 『その人の好きなように任せると仕事の質は上がる。』
『意欲的に没頭できる。』
『わくわく』の創出が重要。

私の経歴として、企業の人事を二十年、大学でも十年程キャリア系の授業を担当し、コンサルティングや企業研修など、人の育成に関する業務全般を行なってきた中で、「できるだけ好きなように任せていった方が仕事の質が上がる」という持論が生まれ、私の会社では、フルリモート・フルフレックスで自由な時間帯に、どこにいても働くことができ、ワーケーション手当や副業の推奨(結果次第でボーナス支給)といった形態をとっています。(半分実験のような感じです。(笑))

社員5名という会社規模だと、仕事の範囲が狭くなるので、それであれば副業で様々な経験を積んでもらう方が、学びの機会として有効ではないかという考え方が大きいです。

日本人は結局、根が真面目なので「働かなければならない」という義務感で働く人がとても多いと感じます。しかし、私の経験上、義務感で働くよりも、意欲的にやる人の方が、やはりアイデアが豊富に出ますし、いい仕事をしてくれるので、本質的には、そこが一番大事だと思っています。

今、日本は仕事に対して没頭できない環境が多く見受けられるので、それが国の生産性を下げている一つの要因だと思っています。

まずは、自分の人生に「わくわく」して、楽しめる場を作れば、仕事に対しても前向きに向き合う事ができ、そこから生まれる生産性や価値が、うちの会社の事業の強みになっていくんじゃないかと思っています。私もフラフラするのが好きなので、自分自身も今の環境を楽しんでいます。

Q ワーケーションや副業などを

A 実践する中で感じられる効果は? サテライトオフィスについての捉え方、考え方は?

「環境や場所を変えようと『気づき』と『学び』が生まれる。中小企業こそ、ワーケーションや副業を推進するべきだと思う。」

【ワーケーション・副業等を実践して】
私自身が実感していることは、環境を変えようと普段の思考が、良い意味で外れてくれるんですよ。会社の机で長時間考え込んでいたと、だんだんと視野が狭くなっていっていましたが、場所が変わるだけで、色んな考えやアイデアが芽生えるケースが多くあります。

Q そういった点で「気づき」と「学び」を促す教育的効果があると思いませんか?

A また、副業という部分にも絡むのですが、違う場所へ行くことを経験すると、凝り固まった脳みそがほぐされていくような感覚となり、先入観や固定観念を壊してくれるきっかけにもつながります。

その場所での経験からも同様に、新しい「気づき」と「学び」を感じ、さらに、これまでの経験や考え方と噛み合わせることで、今までにない角度からの視点から、斬新で合理的な発想に繋がるので、とても有益な成果が出てきます。

このような働き方の形は、時間も場所も自由ですが、自立的にある程度考えて行動できるタイプの方じゃないと難しい部分もありますが、中小企業こそワーケーションや副業を取入れるべきと考えます。

【サテライトオフィスについて】

Q コロナ禍を経て、いつでもどこでも働ける環境が整いだしている。今、「他拠点における生活もありかな」とは思っていますか?

A 夏の間は、避暑地として北海道を選んで過ごす等、既に実践はしているのですが、私の思い描くサテライトオフィスは、その場所働く人が一定数常勤している環境ですので、それはもう移住(移転)しているイメージです。

私の見解として、固定経費を払ってまで地域にオフィスを構えること、効果があるのかと言われると、正直なところ疑問があります。もう、その場所、地域が気に入ったのなら、わざわざオフィスを構えず移住をして、自分の家を拠点に働く方が良いのではないかと思っています。

Q 新冠町の印象、強みと弱みは?

A 『新冠の夕日』は多くの人を惹きつける。この地域にしかない「何か」の具体化が必要。

昔、北海道に来た際、日高路を通ったので、新冠の道の駅は覚えていましたが、それ以外の印象はほとんど残っていないのが正直なところなんです。

私自身、まだ見れてないので憶測になってしまいましたが、新冠の夕日は高いポテンシャルを感じます。ここにしかない「何か」というのは、大きな価値があると思うんですけど、地元の人には日常の中で当たり前のように目にしている光景ですので、その魅力に気づかず見逃してしまっている気がします。

全国区の椿サロンさんが大狩部に出店してありますが、確かにあの立地場所から見ると景色は凄いいんだらうなと想像だけでも思いますが、わざわざあの場所に、「夕日」というコンセプトを全面に出した店を構えたということは、やっぱり人を惹きつける大きな価値があるんだと読み取れますし、その強みを持つ新冠町は大きな可能性を秘めていると思います。

Q 逆に弱みとしては、お店が少ないこと、お店の情報をつかむツールが弱いところですか?

A そうですね、ワーケーションはコストをかけず、食材を買って自炊して過ごす性質がある中で、そういった弱みがあることは滞在時の町の印象にも繋がってしまうと思います。

その他、その地域にしかない「価値」の創出はとても重要なことであると思います。食べ物で例を挙げると、海がある地域は、大体「海鮮丼」で、山のある地域は「山菜料理」を推し出すところが多いんですけど、東京の人から見ると、全部一緒に見えるんですけど、よね。贅沢な食材であるにも関わらず、ありふれた類似的なものになると、どこの田舎も同じようにしか見えなくなるので、やはり、そこでしか味わえない「何か」や、そこでしか体験できない「何か」をもう少し具体化して、ブランド化して行かないと、地域の解像度が上がっていかないと、やないかと思えますし、そういう類似地域からの脱却を目指していくことが、重要であると思います。



Q 新冠町の地域課題を改善するアイデアは?

A 『時間を忘れて没頭するマニアやオタク等発信力ある人との出会いが重要。』

『レ・コードのまち』と、レ・コード館開館の経緯を伺いましたが、30年前の投資により、ようやく時代の波がやってきた感じがしますね。

レコード全盛当時の方、今のブームにのってレコードを買っている方が「何に価値を持って買っているのか」、「どこに魅力を感じて買っているのか」をつまびらかにすると、利活用への接点が生まれそうです。

例えば、そういう人たちを呼び集めて、レコードや施設を全部見せ、どう思うか、何に「わくわく」するか、話を聞いてみるのが良い手法かもしれないです。予算の中で好きにしてください。その代わりこれだけ人を集客してください。」というのを町の事業としてみるのも斬新です。

やはり義務感で職員の方が考えたり作業をするより、時間を忘れて、それに特化して考えるほど、それらが好きな人に任せられた方が絶対うまくいきます。俗にいう「オタク」の中には、自己完結してしまう方もいるので注意は必要ですが、人を巻き込むことが楽しいタイプの人達だったら、なかなかすごく面白いことを展開してくれそうですよね。

さらにワーケーションと関連させると、日本ワーケーション協会であったり、Team WAA!といったコミュニティと連携してみても面白いと思います。

特にTeam WAA!代表の島田由香さん*のよう、発信力のあるキーパーソンと出会えるかどうか、重要な気もします。

レコード愛好家は、全国を探せば間違いなく存在すると思います。「一週間ホテルに無料で泊まれますので、レコードの整理をしてくださいます」といったイメージで事業展開すると、入力作業だけでなく、並行してそのレコードの価値や情報等も見出され、保管作業+αの効果も期待できるのではないのでしょうか。

*ワーケーションや人材育成のバイオフィニア。日本の梅の生産地である和歌山県みなべ町にて「世界農業遺産×ワーケーション」(梅収穫ワーケーション(梅ワー))として都市部のワーキータを集め、人手不足である青梅収穫を手伝いながらワーケーションを展開した。

朝日小学校の活用アイデアは？

『変態』と言われる人と共に
何かの『聖地』を作り上げる。

温泉街である石川県七尾市では、スポーツ合宿の誘致に向け、民間主導の動きから始まり、官民一体の中でFIFA公認のサッカー施設が整備され、現在ではまさしくサッカー合宿の『聖地』とまで言われています。その中心人物が一人の青年で、私は情熱と妥協しない彼を良い意味で『変態』だと言っています。施設、宿泊事業所、相手方に対する多種多様な課題に、とにかく熱意を持って対応した積み重ねが、合宿の満足度や成功に繋がっているのですが、この彼の努力が、合宿中の指導者間交流という付加価値を生んだことで、飛躍的に全国の強豪校の合宿が増加しブランド化した要因となっています。

こういった成功事例から、朝日小学校もスポーツ合宿の『聖地』に向けた活用のイメージが湧きます。特に小学校という施設規模を活かし少年団合宿誘致はいかがでしょうか。小学生の長期休暇が主な利用期間と想定されるので、プログラムの一つに教室とICTを活用した勉強会(宿題消化)や自由研究の制作などを組み込むと、スポーツ+αの価値も生まれそうですよね。

七尾市と同様、大人にとっても指導者間交流の中で生まれる指導のスキルアップや新しい人脈が生まれる、そういうものを作るための場づくりの施設というのとはとても良い案だと思います。しかし、やはり、それを考えるのが好きで、人を繋げる情熱ある『変態』を見つけられるか、巻き込むかどうかが一番の鍵だと思っています。(職員もNPO立ち上げてやってみませんか？(笑))

その他、今回の参加者の方(渋井麻妃江さん)の提案にありましたが、マイナースポーツは確かに狙い目な気がします。ハンドボールのように、少しマイナーなところ且つ、夏場は避暑地で行われるようなスポーツが良いと思います。長野県の菅平高原は、ラグビー合宿の聖地と言われていますが、あそこは夏場ラグビー場で、冬場はスキー場なんですけど、夏場の方が儲かっているようです。『ラグビーの聖地』としてブランディングされているので、全国の強豪校が終結し、地域にお金が落ちる仕組みが確立されています。

新冠の資源で何かの『聖地』を探すと、やはり『レコードマニアの聖地』ですかね？ 例えば、教室に未登録のレコードを全部入れておいて、「レコードの登録、編さんを自由にやってください。」となれば、レコードが好きな人には、たまらない時間になると思います。

もし、そういった活用方法が実現し、レコードの整理やそれを活かす取り組みが動き出すと、様々な人が町に入ってきてますし、その中には多くの知恵を持っていて、方もいると思うので、『聴く』『見せる』だけではない、レコードの活用の有効な打開策が出てくるかもしれませんね。

さらに、今ののように、単にレコードのデータ入力やナンバリングを機械的に行うだけではなく、その作業の中で様々なレコードの価値を見出していく点は、マニアにとっての自己肯定感を上げる効果もあるでしょうし、そういう人達にしてみると、すごく『わくわく』が止まらない仕組みになっていくものだと思います。

編集後記

本事業の最後を飾るのは、これまでの勤務経験から、現在のフルリモート、フルフレックスという勤務形態を導入する株式会社北陸人材ネットの山本社長でありました。

ご本人のモットーのとおり、本当に「わくわく」する内容のお話ばかりで、同席した私たち職員も日常業務の質を向上させるために、どのような環境を整備すべきか考えさせられる時間にもなりました。

今回いただいたご提案等は、職員や市民の皆さんなど沢山の方と共有させていただき、今後のまちづくりのヒントにさせていただきます。

6月の一か月間で行なった本事業終了後は、北海道でも経験のない暑い夏となりました。皆さまくれぐれもお身体にご自愛をいただき、参加された皆さまのご活躍を心よりご祈念申し上げます。



X (旧Twitter)



公式ブログ



公式note



山本 均さん
【株式会社 北陸人材ネット】



Facebook



公式HP